

不登校・登校拒否が告発する
日本の学校・教育の新しい問題状況

石井拓児
(名古屋大学)

私の学校づくり研究

－学校づくり・子どもの尊厳と権利・教職員の尊厳と権利－

名古屋大学大学院教育発達科学研究科

(専門は教育行政学、教育法学)

単著『**学校づくり**の概念・思想・戦略』(2021、春風社)

共著『**子どもの権利**をまもるスクールロイヤー』(2022、
風間書房)

共著『高校生・若者と学ぶ**過労死・過労自殺**』(2021、学習
の友社)

共著『**教職員の多忙化**と教育行政』(2020、多賀出版)



私の学校づくり研究 －新自由主義教育改革下の学校破壊－

- 佐貫浩・世取山洋介編『**新自由主義教育改革**－その理論・実態と対抗軸－』(大月書店、2008年)
- 世取山洋介・福祉国家構想研究会編『**公教育の無償性**を実現する－教育財政法の再構築－』(大月書店、2012年)、石井拓児「教育における公費・私費概念－その日本的特質－」
- 細井克彦・石井拓児・光本滋編著『**新自由主義大学改革**－国際機関と各国の動向－』(東信堂、2014年)
- 細川孝編著『「無償教育の漸進的導入」と大学界改革』(晃洋書房、2014年)、第6章「日本における青年期の学習費保障と生活保障制度の横断的検討」

新自由主義教育改革批判と子どもの貧困問題、教育財政問題への関心
グローバルゼーションのもとすすめられる公財政支出の削減によって、
教育予算・大学予算の削減や、教職員の多忙化をもたらすと同時に、子
ども・青年の生活を著しく貧困なものにしてきたのではないか？

新自由主義教育改革ですすむ学校破壊

- 新自由主義教育改革 = 公教育予算の縮減 = その方程式

〈選択と競争〉 + 〈評価と予算配分〉 = 〈公教育予算の縮減〉

- 競争と評価を機能化させる**政策メカニズム**
 - ①競争と評価のためのスタンダードの設定
 - ②学校教員の階層化(副校長・主幹教諭等の新しい職)
 - ③校長のリーダーシップ➡特色ある学校づくり(競争的予算獲得)
- 公教育予算を縮減するための**政治メカニズム**
 - ④予算削減に反対する勢力の力を削ぐこと(教員攻撃・組合攻撃)
 - ⑤地域と学校の共同の取り組みを破壊すること
 - ⑥以上の達成のために、教員を多忙化させること

民間資本の参入

- 学校評価
- 教員評価
- 授業評価
- **学力テスト**
- 学校予算の評価配分
- 評価の教員給与・処遇への反映

職員会議の機能を停止させること

新自由主義教育改革で壊される学校

・職員会議の機能不全・機能停止(学校破壊の第I段階)

- ・世界中のどの国でも職員会議での話し合いは重要な意味をもつ。「同僚集団方式 collegiate organization」「集团的決定方式 joint decision-making」
- ・戦後日本の学校づくりに敵対的な勢力は職員会議を敵視するようになる
 - ①職員会議＝教職員の共同協議機関・最終的意思決定機関
 - ②職員会議＝校長の補助機関・諮問機関 ➡ 文部行政解釈
 - ➡ 学校の内部規定を監査・監視するような事態も引き起こされてきた(東京都)
 - ➡ 学校単位での「確認書・合意書」の破棄を求める動き(北海道・広島県)
- ・2000年1月学校教育法施行規則改正「職員会議は、校長が主宰する」

新自由主義教育改革で壊される学校

・学校教育の競争的管理と国家的目標設定(学校破壊の第Ⅱ段階)

- ・2006年教育基本法改正、新設第2条に「**教育目標**」を規定
- ・2007年学校教育法改正、第21条に「**学力の3要素**」を規定
 - ①基礎的な知識・技能 ②思考力・判断力・表現力等の能力
 - ③主体的に学習に取り組む態度

ちなみにこの法改正において教育基本法から「直接責任性」の文言は削除された

※各単元案・各授業案ごとにそれぞれの実践や課題が「学力の3要素」とどう結びついているのかを意識化して明確化することが求められるようになる。

※単元の終了段階で行う各種の課題やテスト等においても、どの要素をどのように評価するか基準化・規準化し、細かに測定しなければならなくなかった。

➡全国学力・学習状況調査(2007年より実施、全国学力テスト)

- ・「**知識に関する問題(A)**」「**活用に関する問題(B)**」(2018年まで)をおく
- ・各地の高校入試問題や大学入試問題で類似する問題が作成されるようになり、小学校から高校までテスト問題として普及したとみられる

新自由主義教育改革こそが 教員の多忙化の根本的要因とみるべき理由

教員勤務実態調査（平成28年度）集計【確定値】～勤務時間の時系列変化～

平成30年9月27日
学校における働き方改革特別部会
資料2-2

- 「教育政策に関する実証研究」の一環として、教員の勤務実態の実証分析を平成28～29年度の2か年で実施し、平成29年4月28日に速報値を公表。（調査期間：H28年10月～11月のうちの1週間。対象：小学校400校、中学校400校（確率比例抽出により抽出。）に勤務する教員。）
- 前回調査（平成18年度）と比較して、平日・土日ともに、いずれの職種でも勤務時間が増加。

● 教員の1日当たりの学内勤務時間（持ち帰り時間は含まない。）（時間：分）

平日	小学校			中学校		
	28年度	18年度	増減	28年度	18年度	増減
校長	10:37	10:11	+0:26	10:37	10:19	+0:18
副校長・教頭	12:12	11:23	+0:49	12:06	11:45	+0:21
教諭	11:15	10:32	+0:43	11:32	11:00	+0:32
土日	小学校			中学校		
	28年度	18年度	増減	28年度	18年度	増減
校長	1:29	0:42	+0:47	1:59	0:54	+1:05
副校長・教頭	1:49	1:05	+0:44	2:06	1:12	+0:54
教諭	1:07	0:18	+0:49	3:22	1:33	+1:49

※28年度調査の「教諭」については、主幹教諭・指導教諭を含む（主幹教諭、指導教諭は、平成20年4月より制度化されたため、18年度調査では存在しない。）。

※平成28年度の小学校教員のうち882人（12.5%）、中学校教員のうち719人（8.9%）が、土曜日・日曜日のいずれかが勤務日に該当している。

※18年度調査と同様に、1分未満の時間は切り捨てて表示。

● 教員の1週間当たりの学内勤務時間（持ち帰り時間は含まない。）（時間：分）

	小学校			中学校		
	28年度	18年度	増減	28年度	18年度	増減
校長	55:03	52:19	+2:44	56:00	53:23	+2:37
副校長・教頭	63:38	59:05	+4:33	63:40	61:09	+2:31
教諭	57:29	53:16	+4:13	63:20	58:06	+5:14

※28年度調査では、調査の平均回答時間（1週間につき小学校64分、中学校66分）を一律で差し引いている。

新自由主義教育改革こそが 教員の多忙化の根本的要因とみるべき理由

- ・**教員勤務実態調査(2006年→2016年)**
- ・働き方改革元年は2006年、このあと、文部科学省も各地の教育委員会も「働き方改革プラン」「働き方ガイドライン」といったものを懸命に策定
- ・しかし、2006年から2016年までの10年間で、**教員の1日当たりの学内勤務時間は43分、1週間当たりの勤務時間は4時間13分も増加している。**それはいったいなぜなのか？と問う必要がある
- ・教員のみならず校長、副校長・教頭も、いずれの職種でも勤務時間が増加しているのはなぜか？
- ・週あたりの労働時間は、教員の平均で小学校57時間29分、中学校で63時間20分。労働基準法上の週40時間を大幅に上回っている(しかも持ち帰り時間は含まれていない)。

・新自由主義教育改革＝競争的教育環境が教員の多忙化を促進(猛烈なアクセル)
多忙化抑制機能＝職員会議機能が不全化(ブレーキ機能の低下)
文部科学省・教育委員会の施策が見当違い(効きの悪いブレーキ)

新自由主義教育改革で壊される学校

・学習指導要領と競争的入試環境の大暴走(学校破壊の第Ⅲ段階)

・2008年学習指導要領／2018年学習指導要領

「観点別評価」と「主体的対話的な深い学び」

- ①指導要録＝内申書が入試基準として利用される限り、各学校あるいは各教師の自由裁量になりにくい
- ②2000年代以降、公立高校入試改革によって学区が撤廃されるようになったため、入試基準となる指導要録はより広域的に統一されるようになった
- ③各学校の「評価規準」は塾や予備校によって分析されるようになり、これに対応するためのテクニックが流布するようになる
- ④新しい「評価規準」を作成し、評価規準は緻密化・厳密化されていく(エクセルの普及)

「観点別評価」と「主体的・対話的で深い学び」 でなぜ学校は忙しくなるか

①某進学塾の指導

- ・「たとえわからなくてもできるだけ授業中挙手をしなさい」
- ・「授業後は個別に、先生に質問に行きなさい」

②学校での評価方法の例（名古屋市中学校教員の例）

・忘れ物チェック(減点) / **宿題チェック(減点・加点)**

・発言回数チェック(加点)

・居眠り、おしゃべりなどの注意回数(減点)

・感想用紙・意見用紙のチェック

・提出物チェック

…期限(遅れた日数・時間による減点)

…内容

・板書をそのままきれいに書いているか:減点法

・板書以外の先生が言ったことを書いているか(加点)

・抜き打ちの教科書チェック

アクティブラーニング

「先生にゆっくりきちんと説明してもらった方が勉強がわかりやすいです。アクティブラーニングは知識が断片的になるのでわかりにくい」(高校生)

「毎日毎時間アクティブラーニングが続いてとても疲れています。今日もずっと話し合いばかりなんだろうと思うと、学校に行くのがいやになってしまいました」(不登校の中学生)

「いじめ経験があり、アクティブラーニングで話し合いをやろうとすると、またいじめられるんじゃないかと思うと怖くなってしまって声が出なくなる」(中学生)

「お友達が「あなたもしゃべってくれないと私たちの評価にも響くんだよ」、と言って不機嫌になる」(中学生)

「先生が期待するような質問をするようにしていた」(大学生)

「とにかく学校の勉強が難しい」(小学生)

「宿題をいっしょにやっても解けない問題がある。塾に行かせるしかない」(小学生の母親)

「観点別評価」と「主体的・対話的で深い学び」 でなぜ学校は忙しくなるか

③定期テスト・入試問題の難易度UP⇒学習難易度UP

- ・知識を問うのではなく
- ・データ等を読み取ったり、考察したりする力を問う傾向
- ・難解な問題の開発・多発(粘り強さ＝人間力？を測定)

- ・特性のある子どもたち(困難を抱える子どもたち)が「主体性評価」によって「できない子ども」との烙印を押されてしまっているのではないか
- ・学校内外での子どもの活動がすべて評価の対象になっているということをどう考えるか(子どもと共に保護者も評価の対象にさせられているのではないか)
- ・もうひとつの重大な問題は、教師の専門的判断(＝学習評価)における主体性が損なわれてしまっているのではないかということ

【参考資料】

中央教育審議会初等中等教育部会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」2019年1月21日

・「学期末や学年末などの事後での評価に終始してしまうことが多く、評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない」「**現行の「関心・意欲・態度」の観点について、挙手の回数や毎時間ノートを取っているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭し切れていない**」「教師によって評価の方針が異なり、学習改善につなげにくい」「教師が評価のための「記録」に労力を割かれて、指導に注力できない」「**相当な労力をかけて記述した指導要録が、次学年や次学校段階において**」十分に活用されていない、」(4-5頁)

・「また、「**主体的に学習に取り組む態度**」については、**挙手の回数やノートの取り方などの形式的な活動ではなく、児童生徒が「子供たちが自ら学習の目標を持ち、進め方を見直しながら学習を進め、その過程を評価して新たな学習につなげる**といった、学習に関する自己調整を行いながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしていたりしているかどうかという、意思的な側面を捉えて評価することが求められる」とされている」(9頁)

・「中学校の途中まで成績が不振であった生徒が学習改善に取り組んだ場合でも、それまでの成績が入学者選抜において考慮される場合、**成績不振だった期間が調査書に影響し、高等学校入学者選抜時の学力が十分評価されることが難しい仕組み**」「中学生が、**入学時から常に「内申点をいかに上げるか」を意識した学校生活を送らざるを得なくなっている状況**もあり、例えば、授業中の話合いや生徒会で意見を述べるときに教師の意向を踏まえたり、本意でないまま授業中に挙手したり、生徒会の役員に立候補したりするなど、自由な議論や行動の抑制につながっている場合もある」(22頁)

【参考資料】

中央教育審議会初等中等教育部会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」2019年1月21日

・「具体的な評価方法としては、**ペーパーテスト**において、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図るとともに、例えば、児童生徒が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて、**観察・実験**をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、**多様な方法を適切に取り入れていくことが考えられる**」(8頁)

・本観点に基づく評価としては、「主体的に学習に取り組む態度」に係る各教科等の評価の観点の趣旨に照らし、**① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行う**おうとする側面と、**② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面**、という二つの側面を評価することが15求められる。(11頁)

- ・「粘り強さ」と「自らの学習を調整する力」はどうやって測定するというのか？
- ・学校と教師に無理難題を持ち込んでいるのではないか？

2017年7月13日「大学入学共通テスト実施方針」、および「平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告」➡大学入試でも学力の3要素を多面的・総合的に評価することを求める

「難しすぎる」共通テスト数学が抱える根深い問題 基礎的な試験というより「処理能力を測る試験」

芳沢 光雄：数学・数学教育者

+ 著者フォロー

2022/01/22 16:00

[シェアする](#) [ポストする](#) [ブックマーク](#) [メールで送る](#) [印刷](#) [A+ 拡大](#) [A- 縮小](#)

今年が2回目となった大学入学共通テスト（写真：共同）

「大学入学共通テスト」の数学1・数学Aの平均点（中間集計）が、昨年と比べて20点ほど低く、約38点であったことが注目されている。難しい試験を行えば結果が悪くなることは当然であるが、問題量の多い試験を短時間で行うことは、一般的には処理能力を測ることが目的のように思われるかもしれない。

「難しすぎる」共通テスト数学が抱える根深い問題 基礎的な試験というより「処理能力を測る試験」

芳沢 光雄：数学・数学教育者

+ 著者フォロー

2022/01/22 16:00

[シェアする](#) [ポストする](#) [ブックマーク](#) [メールで送る](#) [印刷](#) [A+ 拡大](#) [A- 縮小](#)

当てずっぽうでも正解になることもあるマークシート式試験で、その方々の平均点が約38点ということは、抜本的な見直しが必要である。受験生の世代はコロナの影響で、満身に勉学をできなかった面もあったことを忘れてはならない。数学1・Aの試験後に多くの受験生から、「難しすぎた」という意見が続出したことも、重く受け止めるべきだろう。

もう1つ指摘したい点は、「主体的・対話的で深い学び」という学習指導要領を反映させたように思われる出題傾向である。花子と太郎ばかりが登場する会話調の問題形式は、時間が限られたマークシート形式の試験で適当かどうか検討すべきという意見もある。たとえば、昨年と比べて平均点が約17点下がって43点となった数学II・Bの試験では、歩行者と自転車の日常ではありえない動き方の問題が設定され（問題4）、花子と太郎の会話調の問題に入っている。もっとも、本質は数列の問題である。

かつて筆者は、有名私立中学校の入試算数問題には、「実際はありえない設問形式が目立つので、それは改めたほうがよい」という趣旨の論文を算数教育の学会誌に書いたことがある。具体的には、「ある容器に偶数匹の生物Aを入れると、それらは一晩で半分の数の生物Bに変身する」とか、「濃度が50%とか70%の食塩水（100℃でも最大28.2%）」とか仮定した問題であるが、算数を身近に感じさせる問題が逆に無関係に思わせてしまうことにも配慮すべきと考え、その論文を執筆した。

今回の数学II・Bの試験に関して言えば、初めからヒント付きの数列の問題として出題してもよかったのではないかと考える。

受験の月

.....

ピックアップ

>Pick Up

数学・物理・化学

>overview

教育・学習・受験

>examination

サイト情報

>information

河合塾予想平均点速報の衝撃

数学の試験後のネットには、「難しすぎ」「隣の人問題破って草」「夢ならどれほどよかったでしょう」「難化ではなく進化」「女の子が泣き出した」などの意見が並んでいた。一言で言えば

阿鼻叫喚

阿鼻叫喚 人々が苦しみ泣き叫ぶような非常に悲惨でむごたらしいさま。八大地獄のうちの「阿鼻地獄」と「叫喚地獄」に由来する。

自分は「やはり今年は難しかったのか」と思う一方、「ほとんどは下位～中間層の受験生の意見だろう」と当初はそこまで気に留めることはなかった。

伝説の入試問題

2022年 大学入試共通テスト 数学 I A

平均38点の衝撃！異次元難度の恐るべきカラクリ

早くも共通テスト数学を象徴する太郎・花子が登場し、解答に全く必要のない無駄話を開始する。

「ざっと読み流して要点をつかむことが大事」「読解力の低下だ」などと適当なことを抜かず部外者も多いが、科目の違いおよびマーク数学と記述数学の違いを全く理解していない。

マーク数学では、まずは問題文を丁寧に慎重に読むことが鉄則である。国語や英語では語句1つ読み間違えたところで大した影響はないが、読み違い1つで雪崩式に大量失点してしまう可能性があるのが数学の恐ろしいところである。また、他科目のように難問でも勘で当たるといったことがないため、解けるは

本問は、2019年に問題になった自衛隊の陸上配備型イージス・システムの設置に関するずさんな調査を元に行っていると思われる(大学入試センターはやんわり否定しているが具体的な数値までほぼ一致)。鉛直方向と水平方向の縮尺が異なったままでレーダーの電波が遮られる山の仰角を計算し、約4度が正しいところを約15度と記載してしまうという非常にお粗末なものであった。

粘り強さの測定？

受験生のその微かな希望に対し、共通テストはあまりにも無慈悲だった。

自分もこの問題を解いた後、「いや～これは難しいなあ。[キ]と[ク]それぞれ3点くらいかな。」な思いつつ解答を確認して戦慄した。

キ, ク	3, 1	3
------	------	---

「うっっっそ、これ両方正解しないと点もらえないじゃん。。。しかもたった3点。。。」

時間のなかでせっかく理解した長文は解答に全く必要なく、相関係数を求める公式(SとTの共分散)÷(SとTの標準偏差の積)を覚えているかだけが問われている。

数値がうざいことこの上なく、何をさせたいのかが全くもって意味不明で問題用紙を破り捨てたくなってくる。ただ、誰でも解ける問題を捨てるわけにもいかないの、受験生は否が応でも計算地獄に落ちていく以外にない。

自分は、以下のような手順で絶対にミスしないように慎重に計算して2分ほど要した。

$$\frac{735.3}{39.3 \times 29.9} = \frac{245.1}{13.1 \times 29.9} = \frac{24510}{131 \times (300 - 1)} = \frac{24510}{39300 - 131} = \frac{24510}{39169} = 0.625 \dots$$

東大生解説「共通テスト英語」過去イチ難しい衝撃

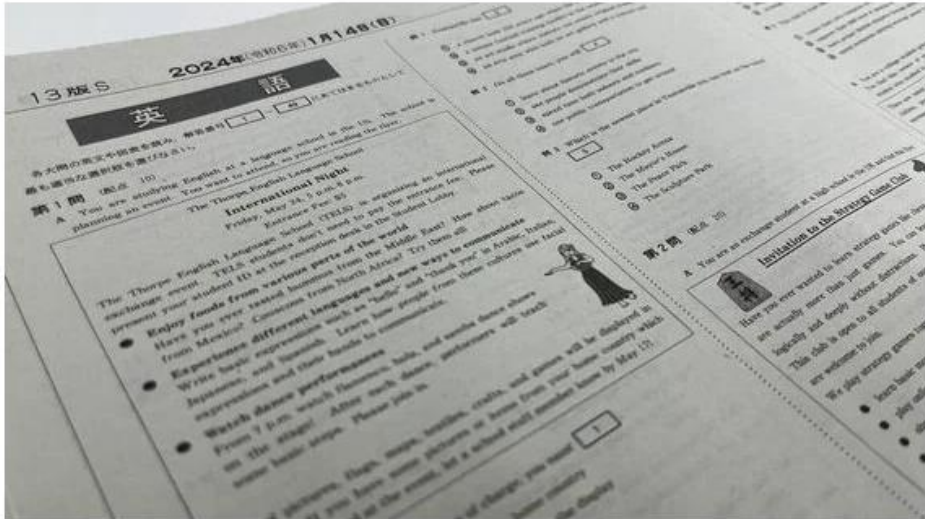
SNS上でも英語難化の声、なぜ難しかったのか？

西岡 杏誠：現役東大生・ドラゴン桜2編集担当

+ 著者フォロー

2024/01/15 12:10

シェアする | ポストする | ブックマーク | メールで送る | 印刷 | A+ 拡大 | A- 縮小



過去イチ難しかったとされる英語リーディングの問題。そのポイントとは（写真：朝日新聞より引用）

2024年1月13日・14日にかけて、大学入学共通テストが実施されました。

センター試験から共通テストに変わって今回で4回目となる入試。今年も、新傾向の問題や難しい問題に苦戦する受験生が多かったようです。

2024共通テスト英語

・問題のページ数「40ページ」は過去最多

・問題文の合計単語数は約6300語(センター試験時代は約4000～4500語)

・「東大生たちも、「時間内に解けなくはないけれど、全部読もうとしたら本当に時間がなくなる」「1～2問は(時間がかかるから)捨てて、次の問題に進んだ」「受験生時代に解いていたとしても、かなり低い点数になっていただろう」との感想がありました。」

・「**魔の第5問**」

=小説的な文章の出題。小説のワンシーンを取り出して、「なぜこの人物は「皮肉」という言葉を使ったのか？」と問う問題。→「表現力・記述力を問う問題」?

(人間関係が複雑で時系列も入り組んでいる)

これも？粘り強さの測定？

共通テスト「生物」平均点激減 難問はないのに受験生が苦戦した理由

2023.01.25



2023年度大学入学共通テストは、「生物」の平均点が前年より大きく下がり、「理科②」の物理とは20点以上の差が付き、得点調整が行われる事態になった。なぜ、受験生は苦戦したのか。

【共通テストリサーチ】生物の平均点ダウンの要因

▼2023年度 共通テスト 生物 第1問 問4

問4 光合成を行う真核生物どうしても、葉緑体内の葉緑素は分類群によって異なる。表1は、光合成を行ういくつかの真核生物の分類群とその葉緑素を示している。表1を踏まえて、図2に示す系統樹中のア～オに入る分類群の組合せとして最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ、た

分類群	葉緑素
紅藻	フィコシアノピリンタンパク質複合体
褐藻	フコキサンチンタンパク質複合体
ケイ藻	フコキサンチンタンパク質複合体
緑藻	クロロフィルタンパク質複合体
植物	クロロフィルタンパク質複合体

図2

シャジクモ類

ア

イ

ウ

エ

オ

	ア	イ	ウ	エ	オ
①	紅藻	褐藻	ケイ藻	緑藻	植物
②	紅藻	ケイ藻	褐藻	緑藻	植物
③	紅藻	緑藻	植物	褐藻	ケイ藻
④	緑藻	植物	紅藻	褐藻	ケイ藻
⑤	緑藻	植物	褐藻	紅藻	ケイ藻
⑥	緑藻	植物	ケイ藻	紅藻	褐藻
⑦	植物	緑藻	紅藻	褐藻	ケイ藻
⑧	植物	緑藻	褐藻	紅藻	ケイ藻
⑨	植物	緑藻	ケイ藻	紅藻	褐藻

(占有率) 物理・生物の得点分布

- 平均点が大きくダウンした生物だが、難問と呼べる特別難しい問題はなかった。また、「問題ページ数」「小問数」なども大きな変更はなかった。
- ただし、読解力と高度な思考力を要する考察問題が大幅に増加した一方、単純な知識のみで解答できる問題の出題はなかった。
- 昨年同様の内容の出題がされているが、解答を導き出すまでのステップが多かった。また、選択肢には判断に迷うダミーが多く含まれており、選択に迷う問題が増えた。

高校生新聞社/河合塾提供(禁転載)

大学入学共通テストの生物の平均点低下についての河合塾の分析

河合塾の分析では、生物では、「難問」といえる特別難しい問題はなかったという。ページ数や小問数も昨年と大きく変わらなかった。一方で、「生物の知識と、データなどをよみとり考察する力」の両方を必要とする問題が増えたという。

2023共通テスト生物

・データの読み取りと生物の正確な知識が必要になった

・選択肢が①～⑨まであり、「選択に迷った受験生もいたらろう」(河合塾)

2022年度公立高校入試 出題傾向の変化の分析 [高校受験コラム_10]

・各地の公立高校入試も難化傾向。
なかでも英語が最も難化傾向にあると分析。

・全教科とも「思考力・判断力・表現力」が重視された問題構成に



○塾業界「合格をつかませる授業」
をアピール

○高校入試に対応した試験問題を
中学校の中間テスト・期末テストで
も出すようになるだろう

英語

新学習指導要領により、最も難化したのが英語。扱う単語数が各学年平均して1.5倍となりました。原型不定詞や仮定法、現在完了進行形など新出内容の出題が目されましたが、初年度ということもあり、ほぼ出題がありませんでした。

今年度の岡山県高校入試でも大きな変化はありませんでした。しかし近年の傾向として、長文読解のテーマの難化、語彙数の増加は顕著です。SDGsや異文化交流など内容の深まりが見られます。またリスニングの配点は3割と全国的にみて高配点となっています。内容はあまり難しくありませんが、日頃から英語に慣れておく必要があります。

また受験期になれば、「時間内に解き切る」ことを意識しましょう。知識を習得しつつスピードも意識した学習が大切です。

総論

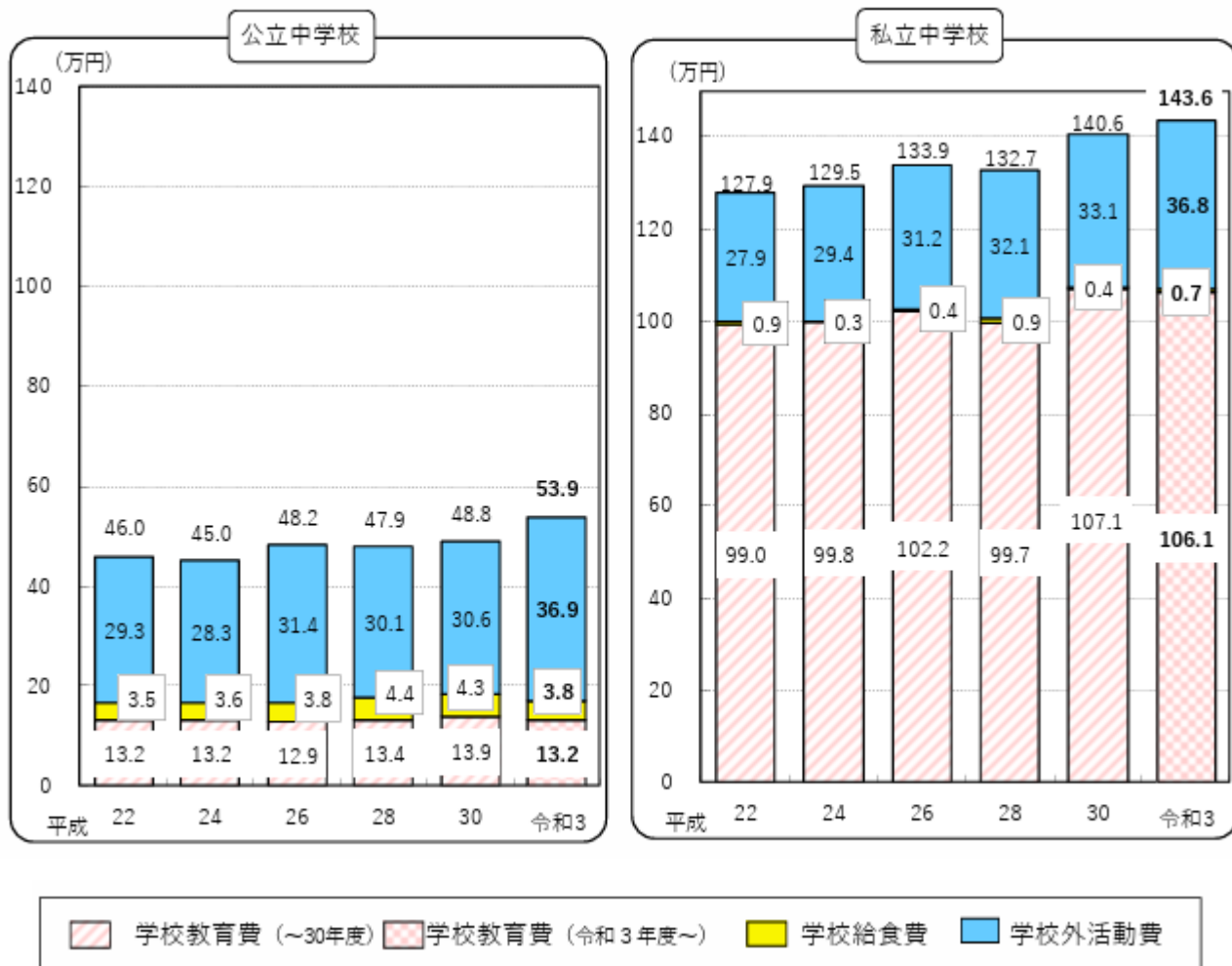
全教科を通して、「思考力・判断力・表現力」が重要視された問題構成になっています。

知識の単純記憶ではなく、それぞれの知識を活用できるようにしておく必要があります。

教室でも、「合格を掴ませる授業」として入試傾向に沿った授業を行っていきます。

最高の春を迎えるために。コツコツと頑張ってください。継続あるのみ！

図 3-1 公立・私立中学校における学習費総額の推移（直近約 10 年・本調査 6 回の推移）



・中間テスト・期末テスト、高校入試・大学入試の試験問題が著しく難化しはじめている

・学校での勉強だけでは間に合わないため、学校外(塾・予備校)に通わざるを得ない状況

・塾に通えるか通えないか(経済的な負担が可能かどうか)で将来が決まる「進学格差」が強まっているのではないか

・学校・教師の負担(どの子どもにも十分に理解をしてほしい、わかるように教えたい)はかなり大きくなっている

・子どもの負担、精神的ストレスは？

・わからない子ども、勉強についていけない子どもは爆発的に増加しているのではないか？(実態論議する必要があります)

・不登校・登校拒否の増加(史上最多)と改訂学習指導要領との関係を疑うべきではないか

学習指導要領の暴走と子どもの困難・苦しみの増大

→学習指導要領2008年改訂

- 小学校で国語・社会・算数・理科・体育の授業時数を10%程度増加、週当たりのコマ数を低学年で週2コマ、中・高学年で週1コマ増加
- 中学校で国語・社会・数学・理科・外国語・保健体育の授業時数を実質10%程度増加、週当たりのコマ数を各学年で週1コマ増加

→学習指導要領2017年改訂

- **小学校の外国語・英語の時間数分の授業時数が増加**(小学校中・高学年で35時間)、これまで小学校学習指導要領に明記のなかった英単語の語彙数の目安(600~700語)／**中学校**ではこれまで1200語が1600~1800語に、小学校で習うべき600~700語と加えて中学校卒業段階で2200~2500語を習得することとなっている／**高校**では1800語から1800~2500語／**高校卒業レベル**で3000語から4000~5000語へと学習すべき内容が大幅に増加
- これまで高校段階で習っていた**五文型、現在完了進行形、仮定法、原型不定詞**が中学校の学習範囲／中学校数学では、**解の公式や二次方程式、球の面積**が復活している。

失敗を繰り返す教員の「働き方改革」(小中学校)

2022年度教員勤務実態調査集計結果(速報値) 2023年4月28日公表

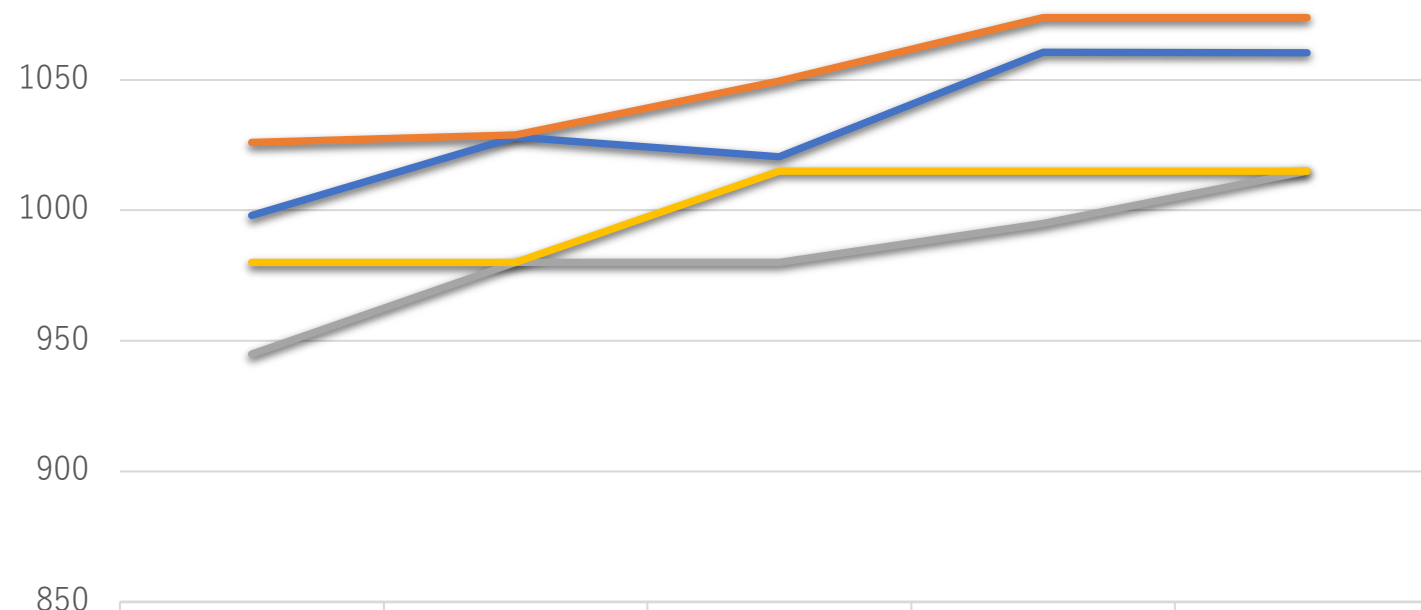
- 平日の在校時間に多少の改善がみられるものの、平日の持ち帰り時間は小学校・中学校とも増加
- 平日の仕事時間(在校等時間数+持ち帰り時間)は、小学校の平均で11時間23分、中学校の平均で11時間33分、高校の平均で10時間36分。
- **毎日2～3時間以上もの残業が常態化**。(過労死との関連が強くなるとされる月45時間のラインを多くの教師が越えている)
- 「業務内容別の在校時間」をみると、各項目で時間数がわずかに減少しているにもかかわらず、**「授業」「学習指導」で勤務時間数が増加**。

参考:

石井拓児「なぜ「教員の働き方改革」は失敗するのか」『教育』2019年8月号

石井拓児「学習指導要領の国家基準化がもたらす教員の多忙化問題」『教育』2023年11月号

文部科学省「公立小・中学校等における教育課程の編成・実施状況調査」にみる公立小学校4年生・中学校2年生の年間総授業時間数の平均の推移



	2008年	2010年	2015年	2018年	2021年
— 小学校4年生	998	1028	1020.6	1060.6	1060.4
— 中学校2年生	1026	1029	1049.5	1073.9	1073.9
— 標準時間数（小4）	945	980	980	995	1015
— 標準時間数（中2）	980	980	1015	1015	1015

— 小学校4年生 — 中学校2年生 — 標準時間数（小4） — 標準時間数（中2）

失敗を繰り返す教員の「働き方改革」(高等学校)

2022年度教員勤務実態調査集計結果(速報値) 2023年4月28日公表

- 平日の在校等時間(10:06)については小学校(10:45)や中学校(11:01)よりも短い
- 土日の在校等時間(2:14)については、小学校(0:36)よりも長く、中学校(2:18)と同程度。

- 多くの学校で実施されている「朝課外」「放課後補習」「土日補習」「長期休み期間中の補習」
- 土日の模擬試験業務
- 補習授業や模試の業務はカウントされているのでしょうか(多くの学校ではPTAからの委託業務?)

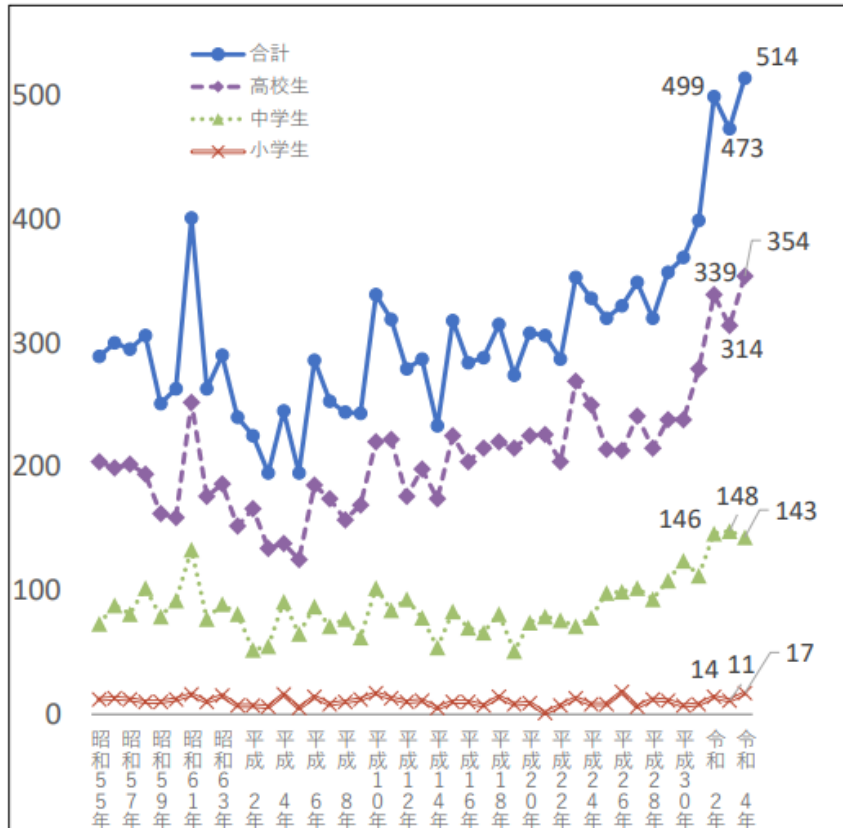
この背景に新自由主義教育改革＝競争的教育環境があることをつかむことが重要
子どもの成長発達にとって何が重要かを考えることも大切なのではないか

学習指導要領の暴走と子どもの困難・苦しみの増大

【令和4年確定値】小中高生の自殺者数年次推移

令和5年3月14日現在

(人)



【令和3年、令和4年】
小中高生の自殺者数年次比較

	令和3年	令和4年	対前年増減数 (R4 - R3)
合計	473人	514人	41
小学生	11人	17人	6
中学生	148人	143人	-5
高校生	314人	354人	40

資料: 警察庁自殺統計原票データより厚生労働省自殺対策推進室作成

自殺者統計(2023年) 小中高生の自殺者数は2022年で過去最多の514人

- ・このうち自殺の原因・動機
「学業不振」が83人
「入試に関する悩み」が37人
「進路に関する悩み」が60人
- ・原因不詳174人を除くと

$$180 / 340 = 53\%$$

・ほかに「家庭問題」「健康問題」があるが、勉強や進路をめぐるの家庭不和、将来不安からくるうつ等の症状悪化なども考えられるのではないか

学習指導要領の暴走と子どもの困難・苦しみの増大

- ・年間授業時間数が各学年で増加の一途をたどっている。
- ・小学校低学年でも1学期から午後も授業が入っている。
- ・基礎・基本(知識)だけでなく、その活用(応用)まで求められるようになり、学習難易度が飛躍的に高くなっている。全国学力テスト、大学入試・高校入試の出題傾向が各学校(教科書会社)の作成するテスト問題にも反映。
- ・「主体性評価」の名のもとに、家庭での学習状況も評価の対象になってきている(宿題の難易度もあがっている?)。
- ・勉強のストレスが子どもどうしの人間関係に否定的な影響を与えてはいないだろうか。

検討すべき課題

かつてないほどの競争圧力の高まり

- ①学習評価・主体性評価と正常分配曲線(正規分布)←観点別の評価観は本来は絶対評価(到達度評価)
- ②もうひとつの背景に、2000年代～2010年代にかけての高校通学区制度の解体状況を念頭に置く必要がある。学校での成績を入試選抜に利用することを前提とすれば、中学校段階での評価方法もまた基準化(統制化)されることになる。(2001年地教行法改正、50条「通学区区域を定める」規定の廃止)

学校づくりの復権

- **学校づくりの復権に向けた課題と展望**

①子どもの成長発達の原理・原則は、教育の自由と自主性、教育の直接責任性の正当性を根拠づけているということ。

②**成長発達は子どもの権利の基本**であり、こども基本法の制定によって国内法でも明確に位置づけられたということ。

③子どもの権利を守るために、条件整備の後退は許されず、教職員の労働条件は絶えず維持・発展されなければならないこと。身分の不安定な教職員が存在してはならないこと。

- 以上のことから、学校づくりは必ず復権するし、復権させなければならない

- そのためには、①**地域・保護者の生活改善・労働条件の改善**が図られ、②安定的な生活保障が措置されれば受験競争は基本的に緩和されることになる。

- 子どもの権利と気候危機の問題は避けて通ることのできない課題

学校破壊を止めるためには、政治を変えるしかない
新自由主義からの政治の転換(福祉国家構想)

子どもの権利条約 4つの原則

命が守られ
成長できること

子どもの
最善の利益

意見表明権

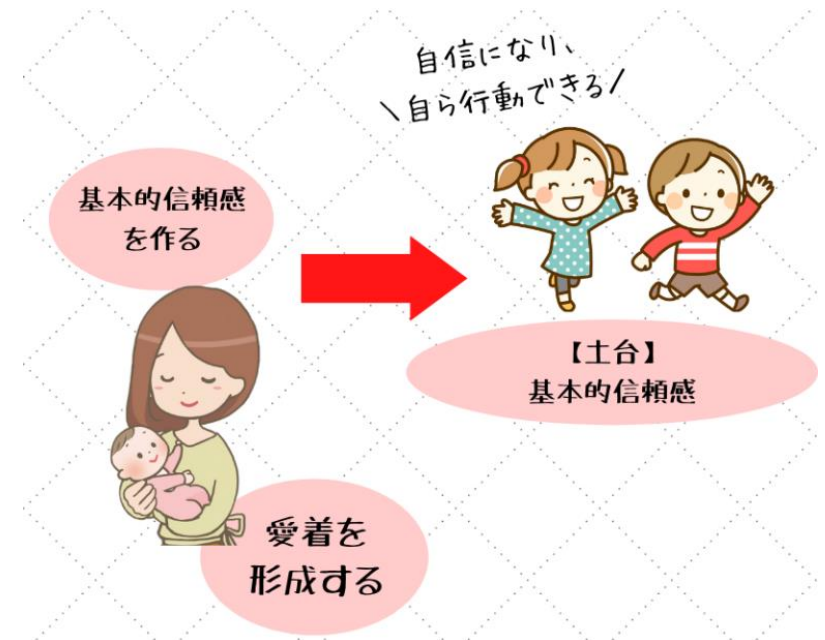
差別
されないこと

意見表明権(子どもの権利条約12条)

締結国は、自己の意見を形成する能力のある児童に影響を及ぼすすべての事項について自由に自己の意見を表現する権利を確保する。

この場合において、児童の意見は、その児童の年齢及び成熟度に従って相応に考慮されるものとする。

「ねえねえ、あのね」
「なあに、どうしたの」



子どもと大人とが話し合いを通じて「子どもの最善の利益」が提供される(子どものわがママがすべてそのまま通るわけではない)。自分の気持ちや意見が聞き入れてもらえなかったときには、子どもは大人に対してその理由を説明してもらおう権利がある。

学校づくり実践の困難をもたらしているのは何か 何が子どもの権利の実現を阻んでいるのか

学校の先生から聞かれること

- 子どもの気持ちを聴きとるのが難しい…
- ついつい、命令口調で子どもを指導したり叱ったりしてしまう
- 何度も失敗を繰り返す子どものことが許せないときがある
- この子がもっと言うことを聞いてくれたら…
- ゆっくり教えたいけど、授業が間に合わない！

背景に、教職員の
仕事の多忙
化がある

子どもや保護者から聞かれること

- もっとよっくりとわかるように教えてほしい
- 先生は忙しそうだから相談できない／相談しにくい
- いじめがあるのにちゃんと見てくれていない

学習指導要領
の大幅な改変
(変質)で教育
内容が増加

「ねえねえ、あのね」
「なあに、どうしたの」

参照: 関係的権利説(故世取山洋介先生)

- ・日本の教育運動・教育実践(授業実践)が大事にしてきた考え方
- ・「子どもの声(つぶやき)をひろう」「子どもの生活を読む」「子どもを真ん中に保護者と連携する」
- ・無数の教育実践の蓄積が日本にはあるのではないか(仲間づくり、授業づくり、学級づくり、学年づくり、行事づくり、地域行事への学校参加、児童会・生徒会、三者協議会・四者協議会、フォーラムづくり…**学校づくり!**)

子どもの権利を大切に作る学校づくり

子どもの権利の推進が学校にもたらす効果

- ①子どもの権利を学ぶと子どもが**自分自身の尊厳や価値**に気づくことができる。自分だけではなく、他の子どもたちにも同じ権利があることを知り、先生や保護者も人権をもった存在と気づくことができる。互いに他者の権利を尊重し合うことを学ぶ。
 - ②子どもたちのなかにそれぞれの違いや多様性を認める認識が育ち、差別やいじめが減っていく。先生と子どもの信頼関係の構築にもつながる。
 - ③子どもの意見に耳を傾けることで、子どもは自分が大切にされていると感じ、毎日を前向きに過ごすことができるようになる。**学校満足度**を高め、**学習意欲の向上**や**学業における成果**にもつながる。
 - ④子どもたちの成長に大切な**自己肯定感**を高める。学校だけではなく、社会にも積極的に参加する意欲をもち、**主体的に行動できる大人**としての成長につながる。
- ユニセフ「子どもの権利を大切に作る教育」(子どもの権利が守られた学校・園づくり)
<https://www.unicef.or.jp/kodomo/cre/>